

印刷物・映像情報の電子ファイル化とWeb上で高速検索可能なシステムの構築 (3) Digitization of material owned by DPRI and construction of the search engine(3)

○ 松浦秀起・辰己賢一・吉田義則・三浦勉・高山鐵朗・和田博夫・平野憲雄
○ Hideki Matsuura, Kenichi Tatsumi, Yoshinori Yoshida
Tsutomu Miura, Tetsuro Takayama, Hiroo Wada, Norio Hirano

At Disaster Prevention Research Institute (DPRI), a large amount of disaster prevention research base Printed Matters has stored since 1951. The aim of assignment research subject of Division of Technical Affairs is that these base materials are widely exhibited to society, and can be used. In this paper, we show digitization of the DPRI Annuals that is published every year, and construction of the search engine which can search the Printed Matters on the Internet website at high speed.

1. はじめに

京都大学防災研究所は創立以来、わが国における自然災害研究の中心的役割を担うと共に、災害科学研究者による研究ネットワーク形成を主導してきた。そして研究の一環として年報を始め、論文やハザードマップなどの印刷物と実験・観測・調査など記録（記録紙、映像を含む）等が、防災研究基礎資料として蓄積されてきている。このような膨大な資料を一般に公開し、分かり易い形で提供することは、防災学研究を推進させ、防災資料の利用者にとって生きた防災情報源として付加価値を高めることになると考えられる。

本研究は、平成 14 年度に採択された 21 世紀 COE 研究分担課題「防災研究所で蓄積された印刷物や映像情報の電子ファイル化とホームページで高速検索可能なシステムの構築」であり、防災研究所が所有している防災資料を利用者にとって、よりわかりやすい形で提供するシステムの構築を目的としている。

2. 防災研究資料の電子ファイル化

平成 17 年度までに、多くの協力者のもと、発刊済みのすべての年報と公開講座資料、第 45 号～25 号の Bulletin の電子ファイル化、及び電子ファイル化した年報をホームページ上で高速検索できる「防災情報検索システム」を構築した。

今年度は A4 サイズを超える研究資料の一つである地震観測のすず書き記録紙を大型スキャナーに通して電子ファイル化を試みた。すず書き記録は各観測所において古くから採用されており膨大な量である。今回は火山活動研究センターと地震予

知研究センター上宝観測所の初期のころの計 4 年分の記録にした。ただし、インターネットで公開するには 1 枚の記録紙のデータ量が大きすぎるため、図書館蔵書同様、存在情報の公開に留めることとした。また、突発災害に関連する静止画像及び、文書資料（インターネット素材を含む）や防災研究所 HP に掲載されている情報等もデータベース内に組み込み、よりユーザにとって使いやすい「防災情報検索システム」を設計、構築し、来年度中のシステムの本稼動も目的としている。

3. 他のシステムとの連携

他のシステムとの連携として、XMDB や SAIGAI、防災研究所 HP、図書館で保管している防災研究所発行の資料も同様、存在情報の公開、リンクを行い、防災研究所の所有している基礎資料をより広く、より分かりやすい形にバージョンアップを予定している。

4. おわりに

年報の全編や公開講座などの電子ファイル化が終わってシステムへのアクセス回数は年間 6000 件にもなり活用されている。さらに膨大な量の観測・実験記録や希少な研究資料の電子ファイル化が望まれている。これらの基礎資料を積極的に検索システムに取り入れて、社会貢献の一助となるようなシステムの構築を今後も続けて行くつもりである。

本研究において貴重な資料提供など技術室へのご理解とご支援を頂いた関係者の皆様方に厚くお礼を申し上げます。